

2. 「ぐんまのうめ」産地再生支援プロジェクト

(対象：旧技術支援課普及指導室)

【評価できる点】

- 温暖化等により作物の品質の問題が叫ばれる中、新しい品種の選定等により価値を創造しておりとても心強い。新品種の作出は時間がかかるなか、素早い対応には好感が持てる。
- 梅産地の縮小が進む中、良い取組だと思う。担い手の高齢化や放棄地園が増加しているが、いかにこの問題を打破するか取組が伺える。
- 定量的な目標設定ではなく、産地発展、耕作放棄地発生回避といった指針に対しての取組を行っている。県内のウメ産地の危機的な状況を踏まえて、適切な課題設定がなされていると思う。
- 関係者を参集した定期的な会議体を軸に検討を進めるという構図は、非常に有効であると考ええる。元々、共計生梅運営委員会として、生産者組織を主とした取組が行われてきた品目であることから、関係者を参集した一体的な検討会が馴染んだ印象を受ける。
- 産地構成が和歌山県1強といういびつな構造においては、販売面でイニシアティブを握ることは難しいが、その中でも、出荷体制に係る課題を解決する成果を挙げただき、根拠を持った体制検討につながった点は非常に評価できると思われる。
- ウメ産地再生プロジェクトを核として、生産から加工販売を見据えた一貫した支援が提供されており、評価する。
- 農業革新支援専門員が核となり、関係機関等と役割分担し、品質の高位平準化や流通販売対策による高単価な取引を実現するなど評価できる。
- 日本の梅は海外での販路も期待できると思うので、お金の取れる作目として、新規の生産者創出に期待している。

【改善・強化に向けた検討事項（意見・要望と対応策）】

1 課題や目標設定に関すること

【意見・要望】

産地再生プロジェクトに関しては、「10年先までの計画を作る！」との記載があったが、プロジェクトであるならば、10年は長いように感じる。一定の成果が出たことから、本プロジェクトを発展的に解消し、現場関係者自らが率先して取り組んで行くよう検討も必要ではないかと思う。

【回答】

本プロジェクトは中長期的な視点で「ウメ産地再生」を目的に関係機関が連携して活動を行ってきたため、スローガンは「10年先までの計画を作る！」となっていました。これまでの活動により、当初の目的や課題が解決し、一定の成果が得られていることから、次年度（令和7年度）をプロジェクト最終年度として一区切りをしたいと考えております。次年度、プロジェクト活動の総括と残された課題の整理を行い、次年度以降は現場関係者らが中心となって各々の課題解決に取り組んでいけるよう、体制整備を行う予定です。

2 活動内容に関すること

【意見・要望】

流通・販売対策支援では、若干の物足りなさを感じました。地元有力企業等との協働による更なる商品開発やブランド力の向上を期待する。地元民間企業等を巻き込んだ連携強化が図られれば、更なる成果の獲得が期待できると思う。

【回答】

外部評価の発表会では紹介しませんでしたでしたが、今年度、県育成品種「ゆみまる」が初集荷となったことから、その出荷体制整備と地元加工業者とのマッチングを支援しておりました。現在は、パッケージに「ゆみまる」の名前を冠した商品開発が進められております。今後も引き続きウメを地元加工業者と協業する等、「ぐんまの梅」の新たな商品開発やさらなるブランド力向上に取り組めるよう関係機関との連携強化に努めたいと思います。